

第540号 2026年5月

安保破棄中央実行委員会
〒101-0061
東京都千代田区神田三崎町2-11-13 MMビルII5F
☎ 03-3264-4764 FAX 03-3264-4765
Eメール anpohaiki@nifty.com
http://anpohaiki.news.coocan.jp/index.html
毎月1回発行/定価100円 年間購読料1800円(送料含む)
郵便振替 00120-3-253220

安保廃棄

- 日米安保条約の廃棄、米軍基地撤去
- 自衛隊の海外派兵反対
- 独立・平和・非同盟の日本を

小林武さん
(沖縄大学客員教授)
憲法学
寄稿

トランプの無法な戦争は 安保廃棄の不可避を告げている

米・イスラエルの
対イラン攻撃に
国際法上の道理なし

法を無視した侵略行為です。この事態のもとで、日米安保条約のあり方を考えておきたいと思えます。

米国の攻撃は、このいずれにも該当せず、明白な国連憲章違反の行為なのです。そこに見えぬのは、対米自主路線をとるイランの現政権を打倒し、体制の転覆(レジーム・チェンジ)を図ろうとする狙いですが、これは、国連憲章が禁止している内政干渉(7条7項)そのものです。

器時代に戻す、さらには「ひとつの文明が今夜滅びるであろう」とまで発言しています(4月7日)。まさにジェノサイドの脅しであって、これに対してはローマ教皇レオ14世も、「どうして容認することができない」と批判するまでに至っています(同日)。このよう

な「君主」トランプのアメリカは、今、体制として「19世紀型の帝国主義」「略奪的覇権主義」などと呼ばれるものとなっています。こうして現在の米国の眼前で展開しているのは、国際法の価値や秩序をいっさい気にしない、米国のトランプ政権のあらゆる不法行為です(トランプ氏は、「私に国際法は必要ない」、軍の司令官としての判断は「自身の道徳観」によつてのみ制約される、と言いつつ、放つています)。すなわち、それは、軍事大国が力だけ、ただ軍事力だけで他国を屈服させるジャンルに世界を変えてしまおうとする所業です。

彼は、イランを「石」

「ゴマすり」と評され

と伝えています(「沖

縄タイムス」「しんぶん赤旗」いずれも3月15日付)。



国会前行動に呼応して取り組まれた「平和憲法を守るための緊急アクション@那覇」=4月8日、沖縄県那覇市

高市政権は4月21日、防衛装備移転三原則」の運用方針の改定を行い、これまで「救難・輸送・警戒・監視・掃海」に限られていた武器輸出の5類型を撤廃し、戦闘機や潜水艦など殺傷能力のある武器の輸出を全面解禁した

2月28日に始まった米国のイスラエルによる対イラン先制攻撃は、国際世論の強い非難にもかかわらず、2カ月を超えた今もおやめられていません。これは、1月の米国によるベネズエラ攻撃に続いて、またもや国際

連安保理事会の決議により承認された場合(42条)と、「加盟国に対して武力攻撃が発生した場合」(51条)です。

なお、この「武力攻撃」は、差し迫った急迫不正の侵害でなければならぬと解釈されてい

ます。米国の攻撃は、このいずれにも該当せず、明白な国連憲章違反の行為なのです。そこに見えぬのは、対米自主路線をとるイランの現政権を打倒し、体制の転覆(レジーム・チェンジ)を

図ろうとする狙いですが、これは、国連憲章が禁止している内政干渉(7条7項)そのものです。

こうして今、私たちの眼前で展開しているのは、国際法の価値や秩序をいっさい気にしない、米国のトランプ政権のあらゆる不法行為です(トランプ氏は、「私に国際法は必要ない」、軍の司令官としての判断は「自身の道徳観」によつてのみ制約される、と言いつつ、放つています)。すなわち、それは、軍事大国が力だけ、ただ軍事力だけで他国を屈服させるジャンルに世界を変えてしまおうとする所業です。

彼は、イランを「石」

「ゴマすり」と評され

と伝えています(「沖

縄タイムス」「しんぶん赤旗」いずれも3月15日付)。

米国の攻撃は、このいずれにも該当せず、明白な国連憲章違反の行為なのです。そこに見えぬのは、対米自主路線をとるイランの現政権を打倒し、体制の転覆(レジーム・チェンジ)を

図ろうとする狙いですが、これは、国連憲章が禁止している内政干渉(7条7項)そのものです。

こうして今、私たちの眼前で展開しているのは、国際法の価値や秩序をいっさい気にしない、米国のトランプ政権のあらゆる不法行為です(トランプ氏は、「私に国際法は必要ない」、軍の司令官としての判断は「自身の道徳観」によつてのみ制約される、と言いつつ、放つています)。すなわち、それは、軍事大国が力だけ、ただ軍事力だけで他国を屈服させるジャンルに世界を変えてしまおうとする所業です。

彼は、イランを「石」

「ゴマすり」と評され

と伝えています(「沖

小林武さん



高市首相とトランプ大統領。3月の日米首脳会談で©内閣広報室

トランプ「帝王」の蛮行と高市首相の媚米外交

こうして今、私たちの眼前で展開しているのは、国際法の価値や秩序をいっさい気にしない、米国のトランプ政権のあらゆる不法行為です(トランプ氏は、「私に国際法は必要ない」、軍の司令官としての判断は「自身の道徳観」によつてのみ制約される、と言いつつ、放つています)。すなわち、それは、軍事大国が力だけ、ただ軍事力だけで他国を屈服させるジャンルに世界を変えてしまおうとする所業です。

彼は、イランを「石」

「ゴマすり」と評され

と伝えています(「沖

こうして今、私たちの眼前で展開しているのは、国際法の価値や秩序をいっさい気にしない、米国のトランプ政権のあらゆる不法行為です(トランプ氏は、「私に国際法は必要ない」、軍の司令官としての判断は「自身の道徳観」によつてのみ制約される、と言いつつ、放つています)。すなわち、それは、軍事大国が力だけ、ただ軍事力だけで他国を屈服させるジャンルに世界を変えてしまおうとする所業です。

彼は、イランを「石」

「ゴマすり」と評され

と伝えています(「沖

縄タイムス」「しんぶん赤旗」いずれも3月15日付)。

米国の攻撃は、このいずれにも該当せず、明白な国連憲章違反の行為なのです。そこに見えぬのは、対米自主路線をとるイランの現政権を打倒し、体制の転覆(レジーム・チェンジ)を

図ろうとする狙いですが、これは、国連憲章が禁止している内政干渉(7条7項)そのものです。

こうして今、私たちの眼前で展開しているのは、国際法の価値や秩序をいっさい気にしない、米国のトランプ政権のあらゆる不法行為です(トランプ氏は、「私に国際法は必要ない」、軍の司令官としての判断は「自身の道徳観」によつてのみ制約される、と言いつつ、放つています)。すなわち、それは、軍事大国が力だけ、ただ軍事力だけで他国を屈服させるジャンルに世界を変えてしまおうとする所業です。

彼は、イランを「石」

「ゴマすり」と評され

と伝えています(「沖

縄タイムス」「しんぶん赤旗」いずれも3月15日付)。

米国の攻撃は、このいずれにも該当せず、明白な国連憲章違反の行為なのです。そこに見えぬのは、対米自主路線をとるイランの現政権を打倒し、体制の転覆(レジーム・チェンジ)を

図ろうとする狙いですが、これは、国連憲章が禁止している内政干渉(7条7項)そのものです。

こうして今、私たちの眼前で展開しているのは、国際法の価値や秩序をいっさい気にしない、米国のトランプ政権のあらゆる不法行為です(トランプ氏は、「私に国際法は必要ない」、軍の司令官としての判断は「自身の道徳観」によつてのみ制約される、と言いつつ、放つています)。すなわち、それは、軍事大国が力だけ、ただ軍事力だけで他国を屈服させるジャンルに世界を変えてしまおうとする所業です。

彼は、イランを「石」

「ゴマすり」と評され

と伝えています(「沖

縄タイムス」「しんぶん赤旗」いずれも3月15日付)。

米国の攻撃は、このいずれにも該当せず、明白な国連憲章違反の行為なのです。そこに見えぬのは、対米自主路線をとるイランの現政権を打倒し、体制の転覆(レジーム・チェンジ)を

図ろうとする狙いですが、これは、国連憲章が禁止している内政干渉(7条7項)そのものです。

こうして今、私たちの眼前で展開しているのは、国際法の価値や秩序をいっさい気にしない、米国のトランプ政権のあらゆる不法行為です(トランプ氏は、「私に国際法は必要ない」、軍の司令官としての判断は「自身の道徳観」によつてのみ制約される、と言いつつ、放つています)。すなわち、それは、軍事大国が力だけ、ただ軍事力だけで他国を屈服させるジャンルに世界を変えてしまおうとする所業です。

彼は、イランを「石」

「ゴマすり」と評され

と伝えています(「沖

縄タイムス」「しんぶん赤旗」いずれも3月15日付)。

米国の攻撃は、このいずれにも該当せず、明白な国連憲章違反の行為なのです。そこに見えぬのは、対米自主路線をとるイランの現政権を打倒し、体制の転覆(レジーム・チェンジ)を

図ろうとする狙いですが、これは、国連憲章が禁止している内政干渉(7条7項)そのものです。

こうして今、私たちの眼前で展開しているのは、国際法の価値や秩序をいっさい気にしない、米国のトランプ政権のあらゆる不法行為です(トランプ氏は、「私に国際法は必要ない」、軍の司令官としての判断は「自身の道徳観」によつてのみ制約される、と言いつつ、放つています)。すなわち、それは、軍事大国が力だけ、ただ軍事力だけで他国を屈服させるジャンルに世界を変えてしまおうとする所業です。

彼は、イランを「石」

「ゴマすり」と評され

と伝えています(「沖

縄タイムス」「しんぶん赤旗」いずれも3月15日付)。

米国の攻撃は、このいずれにも該当せず、明白な国連憲章違反の行為なのです。そこに見えぬのは、対米自主路線をとるイランの現政権を打倒し、体制の転覆(レジーム・チェンジ)を

図ろうとする狙いですが、これは、国連憲章が禁止している内政干渉(7条7項)そのものです。